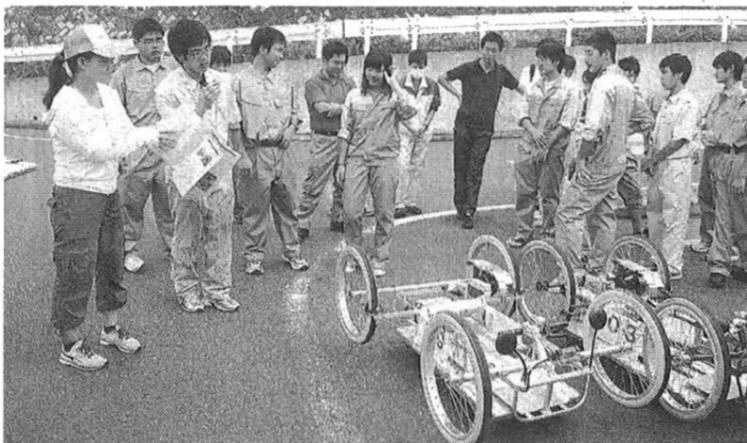


車 笛

三輪以上で停止時に自立構造

ストを東京・多摩市の東急自動車学校で24日実施した。競技は与えられた電気エネルギーを効率的に自動車の基本性能に活用し、いかに効率よく走行するかを競うもので、創意工夫や知的挑戦を参戦チームに求めた。当日は19台のEVが挑戦。競技の結果、栃木県立今市工業高校の「トキ」号が総合優勝した。同校は昨年にも続く連覇で、「より軽量化して大会に臨んだ」のが好成績につながった。

東京都大学(中村英夫学長)は中・高校生による手作り電気自動車(EV)コンテストを開催した。大会は「都市大エコ1チャレンジカップ2013」



①総合優勝した栃木県立今市工業高校チームと参戦EV②優勝カップを手にするメンバー

東京都大学「エコ1チャレンジカップ2013」

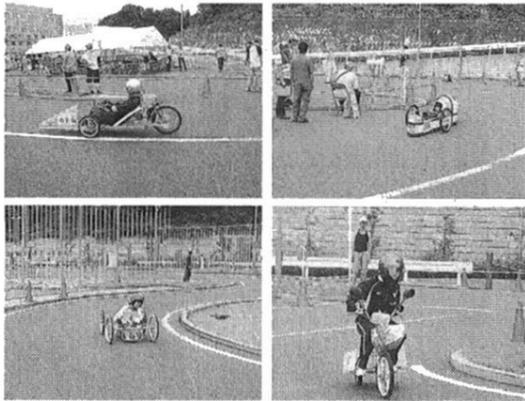
中・高校生が手作りEV競う

優勝は栃木県立今市工業高校「トキ」号



「未来に続くスマートドライバ」をテーマに、ものづくりの楽しさや環境・エネルギー問題の

認識、創造性に富む人材育成などを開催趣旨にする。エントリーは原則、中学生および高校生のおよび高校生のチームで、車両は三輪以上で停止時に自立する構造、市販車両の改造は認めない。



東急自動車学校の四輪教習コースで行われた競技の様子

競走は、東急自動車学校の四輪教習コースを10周し、走行時間を競うものだ。ドライバーは毎回交代。参戦車両には実行委員会が大会前に12球13分の市販バッテリー2個を送付、中・高校生がこれを使って手作りした。車の「走る・曲がる・止まる」の基本性能はもちろんだこと、いかに効率よく走行するかチームワークも重要となる。

逆に、工業高校や自動車部からの参戦チームでは、インホイールモーターを採用したり、低重心かつアルミで車体を設計するなど、高度な技術を採り入れたところも。走行練習にも苦労したそうだ。唯一、女子だけで参戦した普通工学園中・高校チームは「学校の廊下などを利用した」という。

参戦車両には個性的なものが目立った。中・高校生チームということもあり、予算上の制約もある。このため、「モーターを手巻きした」チーム、「学校の備品で車両を製作した」「タイヤはホームセンターで980円の汎用品を購入した」など車両づくりにも苦心の跡がみられた。

小雨が降る中、実施されたエコ1チャレンジカップ2013ではリタイアした車両が一部出たものの、多くのEVが10周を完走した。2位以下は、和光学園・和光中学校の「和光電力WW(ワラワラ)」が準優勝、茨城県立波崎高校の「荒波」が3位に入った。このほか、長野県中野立志館高校の「イブシロン」に技術賞、昭和鉄道高校・豊島学院高校の「iTASHIA(イタシャ)」にデザイン賞、東京都立総合工科大学の「ものづくり奨励賞の東京都立総合工科高校チーム」が贈られた。



準優勝の和光学園・和光中学校チーム



3位の茨城県立波崎高校チーム



技術賞の長野県中野立志館高校チーム



デザイン賞の昭和鉄道高校・豊島学院高校チーム



ものづくり奨励賞の東京都立総合工科高校チーム

●この記事・写真等は日刊自動車新聞社の許諾を得て掲載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。